

会員紹介

このコーナーは会員の皆様をご紹介するコーナーです。
今回は藤野に独特なイベントを主催している2団体をご紹介します。



ふじのキッズシアター (柳田ありすさん 談)

—これまでの経緯

演劇を通して子どもたちの「あるがままでいられる心の居場所づくり」を目的に2001年に発足、その年に第1回公演を行い、今日まで年1回の公演を続けています。主体は子どもですが、その親、藤野在住のアーティストなどの協力を得て22年間、今日まで続けて来られました。

—そのねらいは

当時藤野には子どもたちの活動の場としてスポーツ系のものはありましたが、文化・芸術の場はありませんでした。そんなこともあって、子どもたちの心とからだを解放し、表現する自由、分かち合う喜びの場として演劇の活動を立ち上げることにしました。

ただ、習い事として上手になることを目的に演劇に取り組むというのではなく、作り上げていくプロセスこそが大切だと思っています。そのプロセスで子どもたちの心と体は成長し、感性が育まれていきます。

—やっていて感じる喜びは？

公演終了後のカーテンコール、そこで見せる子どもたちの輝きがステキです。そして親も関係者もまるで一つの家族のように達成感を感じている姿が印象的です。そのコミュニティの柱にいる子どもたち、まさに未来への希望です。

—苦勞していることはありますか

苦勞というのではないかもしれませんが、協力して下さるスタッフ、アーティストの方々に十分な謝礼ができていないことは気がかりです。市の「藤野ふるさと芸術村メッセージ事業」の助成金を受けているのですが、有料公演ではありませんので公演による収入はありません。日本の社会には文化や芸術を育てていくという機運があまりないこととも関連していると思いますが、もう少し公的な助成があるとありがたいなと思っています。

—藤野でやっていることに意味はありますか？

私は演出を担当しているだけで、運営は子どもたちの親が担ってくださっています。そして在住のアーティストたちも快く協力してくれています。これは藤野ならではのことでと思います。



—今後の予定、展望は？

3月25日、26日に旧牧郷小学校体育館で公演を行います。皆さんぜひ見に行ってください。子どもたちの生き生きとした表現はとても感動的なものです。

また、今回から子どもたちを柱に、多様性を認め合い、社会を構成するいろいろな立場の方が参加し、境界を越えて表現するボーダーレスシアターをめざしていきます。



藤野村歌舞伎 (高崎久嗣さん 談)

—これまでの経緯

1989年に神奈川県は当時の藤野町のまちおこしのために「藤野ふるさと芸術村構想」を提唱しました。その目玉事業の一つとして伝統的な農村歌舞伎を復活しようという機運が高まり、当時の町長はじめ何人かのご苦勞により準備が進められました。相模湖の歌舞伎に精通された方に指導を依頼し、衣装や化粧は大月の方の協力も得て、1992(平成4)年、第1回の公演にこぎつけました。その後コロナ禍による休演はありましたが、今日まで公演は続いています。私は第3回公演から出演しています。



—藤野村歌舞伎に子どもも出演していることが感動的ですが…

子どもたちが歌舞伎に加わるようになったのは「藤野芸術の家」が「子ども歌舞伎に挑戦」といった事業を企画したことが始まりです。子どもたちが参加することで歌舞伎を通して多世代間の交流も楽しくできることになりました。これは後継者育成としても大変意義のあることだと思っています。それに子どもたちが出演すると関係者がお客さんとしてたくさん来てくださるのもありがたいことです。

—喜びとご苦勞を

子どもたちが練習を含めて楽しんでくれていること、歌舞伎以外のところで会うと「先生!」などと声をかけてくれることがうれしいですね。公演中におひねりを投げて下さったり声援をかけてもらえることも励みになっています。

苦勞は何といっても人集めです。関係者の伝手を使って何とかしているのが現状です。子どもについていえば、小学生はまだしも中学生・高校生になると部活があったりでなかなか参加が難しくなることも悩みのタネです。

—村歌舞伎は藤野ならではの感じがしますが…

そうですね、公演にかかる経費の一定部分を「藤野ふるさと芸術村メッセージ事業」という藤野に独自に交付されている補助金で賄っていること、そして音響、照明、記録などに藤野在住のアーティストが快く協力して下さっていること、三味線や太鼓などの裏方にも人材がそろっていることも藤野ならではのことでと思います。



—今後の予定、展望は？

もうすぐですが、2月26日(日)の「相模原市民俗芸能大会」(会場はあじさい会館)に参加し「子ども白浪五人男」を公演します。皆さまもぜひお出かけください。

展望、そうですね、とにかく続けていきたいです。舞台作り等を含め、すべて自分たちの手でやっていますので、続けていくために多くの方がいろいろな形で加わってほしいです。また、藤野をPRするために「白浪五人男」の口上として藤野の魅力を語ってもらうコーナーができたら楽しいなとも思っています。